

原発事故後の福島県内未就学児家族 フォローアップ・アンケート調査 集計結果

宇都宮大学福島乳幼児妊産婦支援プロジェクト (FSP)
うつくしま NPO ネットワーク (UNN)
福島乳幼児妊産婦ニーズ対応プロジェクト (FnnnP)

「原発事故後の福島県内未就学児家族 フォローアップ・アンケート」は、2011年8月に福島乳幼児妊産婦支援プロジェクト (FSP)、うつくしま NPO ネットワーク (UNN)、福島乳幼児妊産婦支援プロジェクト (FnnnP) とが共同で実施した「原発事故における「避難」に関する合同アンケート」の回答者へのフォローアップとして2012年6月に実施した。

「原発事故における「避難」に関する合同アンケート」では、およそ 300 世帯へアンケートを配布し、238 件を回収した。今回、この回収できた 238 件のうち連絡先が把握できている 84 件へ、うつくしま NPO ネットワークよりアンケート用紙を送付した。2012年6月末の提出締め切り時には、34 件のアンケート用紙を回収した。

	配布数	回収数	回収率
2011年8月原発事故における「避難」に関する合同アンケート	300	238	79.3
フォローアップ・アンケート	84	34	40.4

フォローアップ・アンケートは、原発事故後の不安感と家族の居住状況を把握した上で、「移住」「疎開」「避難」「保養」を含む居住移動の希望調査と、うつくしま NPO ネットワークと FnnnP による支援を主目的としている。アンケートの問4から問8では情報提供の希望の有無の設問となっている。

まず、問4の「移住」に関する連絡希望者に対し、うつくしま NPO ネットワークから移住支援について情報を提供した。問5では「避難」「疎開」の情報提供の希望を質問した。提供希望者には問6で「避難」「疎開」を希望する地域を質問し、その希望する地域の FnnnP 拠点より情報を提供した。問7では「保養」の相談希望者へ FnnnP 担当者が連絡を取り対応した。

また、FnnnP では2011年8月のアンケートによって連絡先が分かっている回答者に対し、避難・保養・防護などに関する情報を定期的に郵送提供していた。問8では、今後の情報受け取り希望を確認し、希望者には7月に FnnnP 事務局から避難や保養に関する情報を発送した。

アンケート回収後は、以上のような対応をアンケート集計に先行して行った。その後、宇都宮大学 FSP にて2012年7月より入力者2名、入力確認者2名によって34件のアンケートを集計し、以下のような結果を得た。

<アンケート関係者と分担>

うつくしま NPO ネットワーク(UNN)

鈴木和隆 (UNN 事務局長)

調査目的・方針の立案

金子真理子 (UNN)

発送・回収指揮、移住希望者対応

宇都宮大学国際学部 附属多文化公共圏センター(CMPS)福島乳幼児妊産婦支援プロジェクト(FSP)

重田康博 (FSP 代表、宇都宮大学国際学部教授)

調査目的・方針の確認

阪本公美子 (FSP 事務局長、FnnnP 副代表、宇都宮大学国際学部准教授)

調査方法・対応の立案

匂坂宏枝 (FSP スタッフ)

入力指針・指揮、チェック、集計

田中えり (FSP インターン、宇都宮大学 FnnnP Jr.代表) 入力

加戸廉矩 (宇都宮大学 FnnnP Jr.副代表) 入力

福島乳幼児・妊産婦ニーズ対応プロジェクト(FnnnP)

船田クラセンさやか (FnnnP 代表、東京外国語大学大学院准教授)

調査目的・対応の確認

黒川亜矢子 (FnnnP 事務局コーディネーター)

回答者への発送とりまとめ

森下敬子 (FnnnP スタッフ)

保養などの対応

堀ひとみ (FnnnP 首都圏コーディネーター) 首都圏希望者への対応

深見史 (FnnnP 栃木拠点コーディネーター) 栃木希望者への対応

山根純佳 (FnnnP 協力者)

山形希望者への対応

FnnnP 発送ボランティア 述べ4名